

神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490
 FAX (078) 361-4539
 編集 「月報」編集委員 振替口座 01110-2-10517

今年の標語

「来てみませんか」と、誘える教会を目指そう。

努力目標

- ◎ 折り合う交わり。
- ◎ 宣教協議会を開く。
- ◎ 教会ホームページとリーフレット作成。
- ◎ 地域との交流促進。

聖語 喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣きなさい(ロマ 12:15)。

パンは、いつ 増えたのか ～ 主は私たちにパンを配らせられる ～

イエスは5つのパンと2匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて、弟子たちに渡しては配らせ、2匹の魚も皆に分配された。すべての人が食べて満腹した。
 (マルコ6:41-42)

司祭 ミカエル 小南 晃

イエスが5,000人を5つのパンと2匹の魚で養われた奇跡は、4つの福音書すべてに記されています。

5,000人を前にしては、それこそ「焼け石に水」でしかない、たった5つのパンと2匹の魚が、主イエス・キリストのもとに献げられた時、すべての人が食べて満腹する事になったということ。それは自分に託されている賜物が、たとえばほんの僅かなものであっても、それを主イエス・キリストを信じてお献げしていく時には、思いもよらない豊かな恵みがもたらされる事として受け取る事ができるでしょう。

そして実際、ほんの僅かな献金が、或いは小さな善行が発端となって、その後ろに多くの者が続き、そして最終的には思いもかけない大きな結果を生むということは、しばしば証されています。

ですから私たちは、主イエスの「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい(マルコ6:37)」という無理難題と思えるご命令の前に、「めいめいが少しずつ食べるためにも、200デナリオン分のパンでは足りないでしょう(ヨハネ6:7)」と合理的な判断から諦めてしまうのではなく、無理と思いつつも「ここ

に大麦のパン5つと魚2匹とを持っている少年がいます(6:8)」と、さらに1歩、主イエスのもとに近づき、主に献げようとする信仰が大切だということです。

パンはいつ 増えたのか

ところで、6月初めに教役者修養会が鳴門で開かれましたが、その講師として管区総主事の相澤牧人司祭がお越しになりました。「宣教」をテーマにご自身が関わられた3つの新伝道拠点・教会設立の体験を話されました。そしてその際に、この5,000人の供食の奇跡を引用され、「パンは、いつ、増えたのか」という視点からお話しくれました。

パンはいつ 増えたのだろう？

私は今まで余り考えなかったのですが、もしその情景を、イエスがパンを裂けば裂くほど、小さく千切られたそれらのパンが、主の手でモクモクと、まるでポップコーンが膨らむかのように増えて行く想像するとすれば、やはり荒唐無稽としか言いようがないでしょう。

相澤司祭は、イエスは裂いたパンを「弟子に渡しては配らせた」とある。その弟子たちが人々にパ

ンを配って行く時に、パンは増えたのだろうと話されました。確かに、もしどうしても合理的に考えたいならば、弟子たちが人々にパンを配る、その端から、それにも増して「私のパンもお使いください」とパンが差し出されて行ったと考えても良いかも知れません。しかしそうしたのではなく、主イエス・キリストの深い憐れみから託された使命や奉仕の業を、無理と思いつつも、忠実に果たして行く時、その途上でパンが増える、恵みが増し加わって行く奇跡が起こるということではないでしょうか。

パンを配るとは

イエスは飢えた群衆を深く憐れんで、弟子たちにパンを配らせました。そして主イエス・キリストの愛と憐れみは、今でもすべての人々に及んでいます。命のみ言葉を配る事、イエスの愛の業を人々にもたらす事、それは一言で言えば「宣教」に他なりません。そしてこの宣教の業において、一見、「焼け石に水」と思えるようなものでも、それを信仰をもって捧げて行く時、さらには一見、徒労とも思える働きに見えても、主に託された「パンを配る業」を果たして行く時、私たちは今でもこの奇跡を体験する事になるのではないのでしょうか。

そして今、主イエス・キリストが「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」と私たちに託しておられる事がある筈です。それは一瞬、「無理です」と私たちがたじろがせるかも知れませんが、そこで今一歩、主に近づき、そして、共にその業を果たして参りましょう。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
 " 9時15分 教会学校
 " 10時30分 聖餐式・説教
 午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
 土 午前10時30分 教会掃除
 (ご奉仕をお願いします)